

伊藤 整 ひもと 「日本文壇史」を紐解けば

所蔵資料による小さな企画展「文学館アーカイブ」。今回は、今年生誕 120 年を迎えた伊藤整(1905～1969 年)の大著「日本文壇史」に注目します。

「日本文壇史」は、膨大な資料を渉猟して、同時代の文学者や思想家、政治家の関係や影響を明らかにしようとした時代群像の描出の壮大な試みで、この仕事によって伊藤は菊地寛賞を受賞しています。1952 年から連載が開始され、順次単行本化されました。執筆は伊藤が没する 1969 年まで続けられ、没後は瀬沼茂樹が引き継ぎ、1976 年に全 24 巻が完結しています。

本展では伊藤整執筆の第 18 巻(明治末)までを対象とし、森鷗外、幸田露伴、夏目漱石、正岡子規、尾崎紅葉、徳富蘆花、国木田独歩、幸徳秋水、島崎藤村、樋口一葉、田山花袋、泉鏡花、石川啄木ら文壇を動かしてきた文学者たちにもつわるエピソードを本文中から選りすぐって紹介。併せて関連書籍を展示します。

驚くべき情報量にもとづく魅力的テーマの選択、卓越した構成力によって読者を引き込むこの大作に一人でも多くがふれ、日本近代文学に親しみを感じていただく契機になれば幸いです。



伊藤整『日本文壇史』1～18 巻 大日本雄弁会講談社 1953～73 年

* 常設展示室内、文学館アーカイブコーナーでの開催です。

2025 年
4 月 12 日 (土) ～
6 月 8 日 (日)

9:30～17:00 (入場は 16:30 まで)
月曜日休館
ただし 5 月 5 日(月)は開館し 5 月 7 日(水)休館

常設展示室内 入口付近
文学館アーカイブコーナーにて

観覧料(常設展観覧料):
一般 500(400)円 高大生 250(200)円
中学生以下、65 歳以上無料 ()内は 10 名以上の団体

伊藤 整 (いとう せい) 1905(明治 38)年～1969(昭和 44)年



写真:『伊藤整作品集 第 2 巻』(得能五郎の生活と意見) 河出書房 1953

小説家、評論家、詩人。1926(昭和元)年、詩集『雪明りの路』を出版。1928 年東京商科大学(現一橋大学)に入学。小説と評論に転じ、「生物祭」(1932)等で文壇に登場、20 世紀文学の手法研究のもと創作を行う。戦後には小説「鳴海仙吉」を発表、1950 年、D・H・ローレンス「チャタレイ夫人の恋人」の翻訳が猥褻文書の疑いで起訴される。その後は「火の鳥」等長編を発表する一方で、大著「日本文壇史」の執筆を続けた。

● 関連イベント 担当学芸員による関連講座
『日本文壇史』っておもしろい!

5 月 14 日(水) 14:00～ 約 60 分 当館講堂、聴講無料
講師: 苦名直子(北海道立文学館副館長)
要申込: 4 月 30 日(水) 9:00～電話受付 先着順、定員 60 名